

おはようございます。本日は、「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」について述べようと思います。皆さんは「リーダーシップ」という言葉をよく理解していると思いますが、「フォロワーシップ」という言葉は知っているでしょうか。「フォロワーシップ」とは、「リーダーを補佐する機能・能力」のことで、フォロワーとは「補佐役」・「リーダーを支える人」のことです。作家の堺屋太一氏は、『豊臣秀長—ある補佐役の生涯』という歴史小説で、豊臣秀吉の弟の豊臣秀長にスポットを当て、秀長の「フォロワーシップ」が秀吉の天下統一に不可欠であったことを描いています。もし豊臣秀長がもう少し長命であったら、豊臣政権は長期政権となり、江戸幕府は成立していなかったかもしれません。

さて、リーダーシップの重要性については、一般的によく理解されていることですが、実はリーダーシップよりもフォロワーシップの方が、組織にとっては重要であるという説もあります。フォロワーシップという概念の提唱者であるカーネギーメロン大学のロバート＝ケリー教授は、その主著『The Power of Followership (指導力革命—リーダーシップからフォロワーシップへ) (1992年)』で、組織の成果にリーダーが及ぼす影響力はわずか1～2割にすぎないが、フォロワーの影響力は8～9割にもものぼると指摘し、組織において、リーダーシップよりもフォロワーシップの方が重要であることを主張しています。

また、平成22年にスペースシャトル「ディスカバリー号」の乗組員として、国際宇宙ステーションの組立に参加した宇宙飛行士の山崎直子氏は、宇宙飛行士に必要な能力として、「リーダーシップ」・「フォロワーシップ」・「セルフマネジメント」・「状況把握」の4つをあげています。「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」の両方をあげているのは、宇宙飛行士はある作業でリーダーを務めながら、別の作業ではフォロワーに回るなど、様々な役割を並行して果たさなければならないためであるからだそうです。学校でも同様に、あることでリーダーだった生徒が、別のことではフォロワーとなる場面もあると思います。また、ある組織のリーダーも、より大きな組織の中ではフォロワーとなる場面があるし、さらに、いきなり組織のリーダーになることは、なかなかありません。よいフォロワーとしてしっかりリーダーを支えた者が、次のリーダーとなるのが一般的だと思います。

ところで、野田佳彦元首相は、安倍晋三元首相の追悼演説の中で、次のように述べています。「わが国の憲政史には、101代、64人の内閣総理大臣が名を連ねます。先人たちが味わってきた『重圧』と『孤独』をわが身に体したことのある1人として、あなたの非業の死を悼み、哀悼の誠をささげたい」と。日本の首相以上の「重圧」や「孤独」を感じるリーダーは、そうはいないと思いますが、私は、リーダーとしての「重圧」や「孤独」を感じた経験のある者は、リーダーの大変さや苦しみをよく知っているだけに、よいフォロワーにもなれるのではないかと考えています。

ぜひ皆さんも、高校在学中から部活動や学校行事等の様々な場面で、リーダーシップやフォロワーシップを発揮して、自身の成長に繋げていただきたいと思います。

結びとなりますが、皆さんが、事件・事故に巻き込まれることなく、有意義な春休みを過ごしてください。以上で話を終わります。